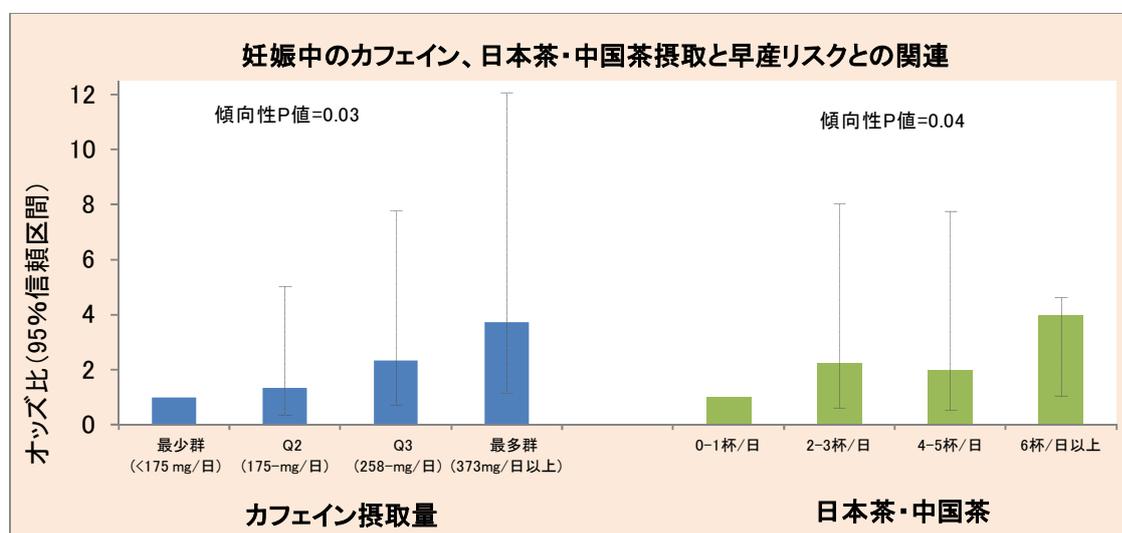


大阪母子保健研究 2-9ヶ月追跡データの結果 妊娠中の母親のカフェイン摂取と出生時アウトカムとの関連

背景：妊娠中の母親のカフェイン摂取が出生時のアウトカムに影響を及ぼすことが示唆されていますが、実はまだよく分かっていません。さらにカフェインの摂取源となる食品が欧米諸国と異なる日本を含むアジア諸国では、その関連性について調べられていませんでした。

方法：大阪母子保健研究のベースライン調査と生後2-9か月時の第1回追跡調査に参加し、単胎児を出産した母親とその児の858組を対象としました。妊娠中の母親のカフェインおよびカフェインを多く含む飲料の摂取状況は、すでに妥当性が確認されている自記式食事歴法質問票を用いて調べました。そして、出生体重2500g未満を低出生体重（Low birth weight; LBW）、出生時37週未満を早産（preterm birth; PTB）と定義しました。また2010年の板橋らによる在胎期間別出生時体格標準値に従い、性別、初産経産別、在胎週別に出生体重が10パーセント未満を胎内発育遅延時（small-for-gestational-age; SGA）と定義しました。そして、これら3つの変数を本研究における出生時アウトカムとしました。

結果：カフェインの摂取源となる主な食品は、日本茶・中国茶（73.5%）、コーヒー（14.3%）、紅茶（6.6%）、そして清涼飲料水（3.5%）でした。そして影響を及ぼすと考えられる種々の交絡要因で調整したところ、妊娠中の母親のカフェイン摂取量は、早産リスクと有意な正の関連を示しました[100 mgカフェイン摂取増に対し、補正オッズ比は1.28 (95% CI: 1.03, 1.58)、傾向性のP値は0.03]。一方、妊娠中の母親のカフェイン摂取量と低出生体重および胎内発育遅延リスクとの関連は認められませんでした。また、妊娠中の母親の日本茶・中国茶摂取と早産リスクとの間にも有意な正の関連が認められました[コップ1杯増に対し、補正オッズ比は1.14 (95% CI: 1.00, 1.30)、傾向性のP値は0.04]。なお、カフェインを多く含む他の飲料（コーヒー、紅茶、清涼飲料水）と出生時アウトカムとの間に関連はみられませんでした。



結論：妊娠中に、特に日本茶・緑茶から由来する、カフェインを多く摂取すると、早産のリスクを高めるかもしれません。

出典： Okubo H, Miyake Y, Tanaka K, Sasaki S, Hirota Y. Maternal total caffeine intake, mainly from Japanese and Chinese tea, during pregnancy was associated with risk of preterm birth: the Osaka Maternal and Child Health Study. *Nutr Res.* 2015; 35: 309-316.